

発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業（文部科学省）

平成20年度西栗倉村 特別支援教育研修会（津山教育事務所管内 放課後研修講座）

発達段階に応じた支援のあり方

～進学・就労・社会参加 子どもの自立と幸せを支える各学校・園の役割～

研修会アンケート（原文のまま いただいたものをすべて掲載しています。）

- ・ありがとうございました。

経験の中からの話だったので、ス〜っと頭に入りやすかったです。本校でも集団から飛び出す児童、物を投げて教室から追い出される児童、さまざまですが、どう支援していくべきか悩んでいました。保健室にも毎日のように引きづられてやってきていました。今日の話聞き、少し道が開けたような気がします。9月から一人一人に向き合って保健室からでも支援できる方法を見つけていきたいと思います。本当にありがとうございました。

- ・参加して本当に良かったです。（勉強になりました）

石原先生の長年の実践からとても具体的でわかりやすいお話で、日々悩んだり、疑問に思ったりしていたことが分かったように思えます。

子どもを正しく理解し、元気が出るようスモールステップでスケジュールを立てていきたいと思えます。

- ・来て、お話が聞いて良かったです。

集団の中で「育ち合う」ことができれば幸せです。（障害があろうと無かろうと）

多くの支援を必要とする子ども達が、社会の中で幸福感を持って生きていけるために、それを支えている家族が同じ思いで生きていけるようにするために、少しでもできることがあれば・・・ということ、しっかりと考え、二学期の実践に結びつけたいと思います。ありがとうございます。

- ・ついつい先を見通して言葉かけをしてしまっていたので、フェイディング（遅延強化）の間を自分で今後意識してとりながら、子どもが自己強化できるように取り組んでいきたいと思いました。

- ・色々知らないことがたくさんあり、もっとみんなで研修をしていくべきだと感じました。たくさんのヒントをいただけたし、具体的なお話で良かったです。

- ・石原先生のあたたかい人柄が感じられてとてもいい講演でした。

ブログもぜひ見せていただきたいと思えます。具体物が実物投影機などで実際に大きく見せていただけると良かったなと思いました。

- ・わかりやすく、具体的なお話でたくさんのヒントをいただいたように思います。もう一度先生のお話を自分の頭で整理しながら、その子その子にあった指導をしっかりと考えていきたいです。ありが

とうございました。

- ・実体験のお話でしたので、とてもリアルでわかりやすかったです。
話の順序も納得でき、参考になりました。
具体的な事例もぜひやってみようというものばかりです。
時間があれば、また、ゆっくり聞きたいです。
- ・卒業式で〇〇さんがいなければ意味がない・・・という 6 年生の言葉がありましたが、集団のすばらしさを教えていただき、集団の中で成長していく大切さがよく分かりました。
- ・義務教育をしめくくる中学校の教師として、支援のいる生徒の進路保障にかかわって、何をすべきかのヒントがあったように思う。また新たに進路情報を集める必要を再確認！
- ・少し難しい部分もあったが、実践例を聞いて得心することができた。難しいと思ったのは、勉強不足に他ならないので、さらに研修を重ねたい。
- ・具体的な事例をもとにお話をしていただき、とても参考になりました。「集団の中で子どもは育つ」を頭に入れ、今後も特別支援教育に取り組んでいきたいと思います。
- ・学校では支援員として、2 年生のクラスに入っています。

この児童のケアをしているときは放っておくような状態になってしまったりするのが気にかかる点です。「なんとかこの時間が終わったからまあいいか」みたいな雰囲気で一学期が過ぎたように思います。

具体的な障害児を担当しているため、特別支援学級の児童に個別対応しているわけではありません。しかし、普通学級での授業では知的 2 人、情緒 1 人がクラスにいて、診断名が付いている児童 3 人、グレーゾーン 3 人と気になる児童、支援を必要とする児童が大変多いクラスです。全員を同時に見ることは不可能ですが、一人一人をしっかりと見て、個別の発達特性を見極める必要があるということを、二学期に活かしていきたいと思います。

- ・中学校の教員（講師）をしているんですが、週に何時間か授業を担当しています。特別支援を実際の現場に立ち教えるというのはとても大変なことだと感じました。
今日一番印象的だったのが『(2)ある保護者の言葉』がすごく心に残りました。保護者と教員では立場が違うし、年も違う。けど子どものために何かしてやりたいという気持ちは同じ何度と思いました。
やっぱり、常に本気で向き合っていないといけないんだなと感じた。
「夢や希望を持たせることが教育」とおっしゃりましたが本当におっしゃるとおりだと思いました。
今日の講演を聞いて参考になったことをこれからの実践に活かしたいと思いました。
- ・具体的な実践が多く、大変有意義な時間であった。日々大変であっても、前向きに子ども達と接したいと思った。

- ・何となく支援学級のプログラムを考えていたが、今日の話聞き、良い刺激となり、学習計画をきちんと考えていきたいと思いました。支援学級で教えることの責任と難しさを実感しました。ありがとうございました。
- ・実践活動を通しての支援のあり方、保護者の思いなど詳しくお話をいただき、一学期のやり方がその子にとってストレスを与えたに過ぎなかったのだろうか悩んでいたときだけに、今日のお話を聞き、間違っただけでなかったのだ、二学期も保護者や先生方と頑張ろうという気持ちを持つことができました。本当にありがとうございました。
- ・今まで特別支援教育について学習してきたことが、整理されてよく分かりました。エラーレス学習、二系統同時学習、行動強化の方法など二学期に向けて準備し、仕組んでいけそうでありがたかったです。ありがとうございました。
- ・一学期は、子どもの実態も分からないまま手探りでスタートして、二学期は実態を理解した上で手だてをしていかなければいけないあと、何とか夏休み中に取りかかっておかないと・・・と考えているところです。
講演の中で、その取りかかりの部分をたくさん教えていただき、ありがたかったです。
- ・心に残る言葉がいくつかありました。
集団への所属は、本能の要求と同じくらい大きな要求だと言うこと、最初から枠を設けて決めつけないことも大切だということ、「〇〇ちゃんなしの行事は考えられない」と子どもの口から出るような集団・・・現実なかなかなか難しい状態です。すべての子ども達の心を育てることが大事だと思います。
卒業後のその子の人生を考えるに当たっては「自分の特性を自分でうまく理解できている」ことが本当に大事だと思います。「特別支援」と枠に入れるのではなく、すべての子に目の前のその子に応じた支援があるのでと思います。
- ・子どもの自立と幸せのため、その一年だけの取り組みだけでなく一生を見通した支援を保護者の方と一緒にすすめていくことはなかなか難しい。石原先生まで信頼関係を築くところまで関わりがもてる保護者だったらよいのですが・・・
- ・様々な実践をもとに、とてもわかりやすい内容のお話が聞けて、とても有意義な研修会でした。集団の中での育ちの大切さや、それこそが本当の育ちだと言うことを改めて感じました。担当している子どもは特別支援学級に所属していますが、国語や算数以外は普通学級に交流という形で行って勉強しています。その子どもは、肢体不自由で車いすで生活しているということもあり、同じクラス(普通学級)の子ども達も、その子に対してある程度の理解を持っていると思います。しかし情緒面での障害への理解はむずかしくて、「変わった子」「どうして〇〇くんだけ」という言葉が出てきたときの対応に少し困ってしまうことがあります。私の立場が、支援員というものですので、その子を取り巻く友だちがその子を受け入れるには、どういう関わりをしたらよいのか、知りたいと思

いました。

- ・質問に丁寧にお答えくださり、非常にありがたかったです。
具体的な指導の内容から、心構えまで幅広く教えていただいたので、二学期からさっそく取り入れてやってみたいと思いました。
石原先生、西栗倉小学校の皆さんありがとうございました。
- ・自閉症とは何か、アスペルガーとは何か、何がどうしてそうなったなど、少し教えてもらえると話
がもっとよく分かったのではないかと思います。
特別支援が始まり日が浅いこともあり、保護者に診断をすすめるにはどんなに言えばいいか、知り
たかったです。中学生になって今から考えると、あの子そうだよなと考えてしまうことがあります。
どうにかパニックの少ない生活をしていって欲しいと考えています。
- ・細かい配慮・自分らしさを大切にしたいと思いました。大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・保護者と連携していくということ、とても大切なことだと改めて思いました。
良くなったこと、取り組んでいることを細かく伝えていくことは、普通学級においても不可欠です。
特別支援学級に通級する子どもと交流学級にいる子ども達との関係(関わり)についても悩むところ
です。子ども達もどのように対応すればよいか困っている場面も多くあります。ケースごとに対応
しなければいけないと思いますが、大変難しいですね。